

災害伝承の取組事例 坂町立小屋浦小学校

概要

(1) 実施日

令和3年7月1日(木)

(2) 対象者 坂町立小屋浦小学校(全学年64名)

(3) 内容

- ・土砂災害について講義
- ・平成30年7月豪雨の坂町小屋浦が受けた被害について
- ・土砂災害警戒区域等標識及び砂防堰堤の見学

平成30年7月豪雨災害にて、土石流の被害を受けた坂町小屋浦地区の小学生を対象に開催

平成30年7月豪雨の被害状況



小屋浦小



学校に設置されている土砂災害警戒区域等標識を解説



令和3年3月に完成した砂防堰堤の現場見学



現場で説明を受け、堰堤を実際に触れてみる児童たち

小屋浦小学校の取組み

県砂防課のほか、国土地理院や地元の自治会長、防災士等から講義を受けつつ防災学習を進め、児童の皆さんが地元のための手作りハザードマップを作成

命を守る！三丁目防災マップ



坂町立小屋浦小学校 学校だより こやうらっ子第7号 令和3年6月30日
https://www.town.saka.lg.jp/koyaura-e/planing/gakko_tayori/R3_tayori7.pdf

児童の感想

- 警戒レベル4になったら避難すること。近くの友達と一緒に避難すればいいと思いました。
- 避難の邪魔をするのは自分の心だということが印象に残りました。
- 砂防ダムが近くにあったら安心ではなく、そこは危ない場所ということを知りました。
- 砂防ダムが出来てうれしいけれど、「自分は大丈夫」と安心せずに地域の人と協力して早めに避難をしたいです。